

旭川市総合庁舎セミナー

- ・「ドコモモ100選」に入った旭川市庁舎って一体どんな建築？
- ・その世界的評価とは？
- ・建築家・佐藤武夫って誰？
- ・建築に込められた設計者の思いとは？
- ・耐震性に問題があっても残せるの？
- ・これからの使いみちは？

今、知っておきたい現・市庁舎の素顔を明らかにする、
どなたでも参加できるセミナーです。

第1回 11月21日(土) 14:00～15:30

第2回 11月28日(土) 14:00～15:30

第3回 12月 5日(土) 14:00～15:30

旭川市民活動交流センターCoCoDe 1階

旭川市宮前通東

■ 参加費無料

■ 主催 公益社団法人 日本建築家協会 (JIA) 北海道支部 旭川会





Photo : 株式会社 佐藤総合計画

● 第1回 《11月21日》 「ドコモ100選」に入った旭川市庁舎って一体どんな建築？ 世界的な評価とは？

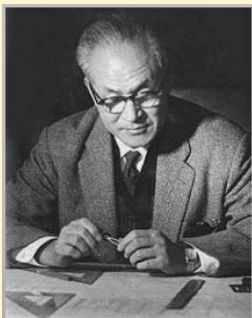
- ・国内外で優れた近代建築として高い評価を受ける現旭川総合庁舎、その魅力をスライドでわかりやすく解説いたします。
- ・現庁舎は耐震性不足の問題を抱えています。
今現在の日本の耐震や免震の技術について、実例を交え建築構造の専門家にお話をうかがいます。

● 第2回 《11月28日》 建築家・佐藤武夫って誰？ 建築に込められた設計者の思いとは？

- ・佐藤武夫設計事務所へ出向し実施設計に携わった元市職員の方々など、建設当時を知るゆかりの皆さんをゲストにお迎えして、建築家・佐藤武夫氏について、また建設当時を振り返り現場で起きた様々な出来事など興味深いお話をうかがいます。

● 第3回 《12月5日》 耐震性に問題があっても残せるの？ これからの使いみちは？

- ・新市庁舎建設の計画が進められていますが、現庁舎の今後はこれからの課題です。
耐震性が不足している建築でも保存再生の可能性があるとするれば、今後どのような利活用の方法があるのでしょうか？
市民活動の拠点、ミュージアム、サテライトキャンパス、etc、様々な未来像をトークセッションを交え皆さんと考えます。



佐藤武夫 (1899～1972)

—— わたくしは旭川で足かけ三年を過ごした。当時中学校の一年生で、酷しい寒さの中を一里ばかり距った上川中学へ通ったわけである。十月の末から翌年の四月ごろまでは、雪の中を歩くのが辛かった。半年ちかく灰色の空と一面の雪におおわれた世界の中で、小さな煉瓦造の建築などを見て通ることは、視覚の中で落とし物を見つけたように嬉しかった。旭川の市庁舎を設計するに当たって、わたくしはこの実感を最初に思いおこした。煉瓦を壁に使おうと心に決めたのである。それもコンクリートと煉瓦を交錯して鮮やかなチェックの模様を、あの灰色の半年の空に聳立させようと考えたのである。

(佐藤武夫「火燈窓」相模書房 1969年)

*現北海道旭川東高等学校



お問い合わせ 0166-53-3780 軽部

公益社団法人 日本建築家協会 (JIA) とは

公益社団法人 日本建築家協会(The Japan Institute of Architects)は、建築の設計監理を行う建築家の団体として、1987年に結成されました。欧米では古くから各国に建築家の団体があり、建築家がその職業的責任を果たす上で必要な活動を自主的に行っていますが、(公社)日本建築家協会はそうした諸外国の組織と同じ性格を持つ我が国唯一の建築家の団体です。当協会はユネスコの外郭団体である国際建築家連合(UIA)の日本支部でもあります。